

くらしと環境研究委員会 2012年度総括

I. はじめに

日本全国を幽霊が徘徊している—原発反対という幽霊である。日本の全ての電力会社は、この幽霊を退治しようとして神聖な同盟を結んでいる。原発立地自治体と中央政府、御用学者とマスコミ、大手ゼネコンと地元政治家。この同盟の結合媒体は利権構造・利害関係であり、それが毛細血管のごとく細部に侵入している。しかし原発廃絶の潮流はすでに、すべての国民から1つの力と認められている。それは原発が深刻な生存権・人権・環境問題を内包するゆえ、それを廃止することが、これまで侵害され、また今後侵害されるであろう生存権・人権・環境を守り回復する営みであるということに、人々は漸く気付き始めたからである。

「命・人権・環境」を捨象して「原発問題」を「エネルギー問題」或いは「経済問題」に視点を特化しようとする動きもみられる。しかし「原発問題」は、そのような面からのみ捉えられる問題でなくあらゆる領域を含む巨大な問題である。福島原発から出る放射能は現在も全ての環境を汚染し続け、まさしく「くらしと環境」を破壊し続けているのである。人間に限定してもそのような視点狭小化の動きは、現在も被曝の中にいる大勢の人々の現実を見て見ぬふりをするという無共感・人権感覚の欠如という状況をもたらしている。即ち、残念ながら日本人はここ何十年にも亘って依然として“経済優先”という価値観のもとに置かれ続けており、命・自然の尊厳を正しく理解できないという状況に停滞しているのである。

唯一の“被爆国”日本は、ヒロシマ・ナガサキで何十万人もの尊い人命を奪われ、またその後遺症に今なお苦しむ多くの被爆者がつくられた。しかも被爆認定・不認定問題が敗戦後67年たった今も続き、被爆者は正しく「救済」（この言葉ほど被爆者をばかにした、不似合いなまた酷い言葉はないが）されていない。

片や唯一の“加爆国”アメリカは、ヒロシマ・ナガサキで被爆者の治療をせず、検査のみを行い、その情報の全てと被爆死体を自国に持ち帰り研究材料にするという、更に輪をかけた非人道的行為を行ってきた。以上は歴史的事実である。さらに、米ソ対立状況の下、アメリカは世界戦略上、核の悪イメージを払拭する目的も含めて、原子力の平和利用という名目で、原爆投下相手国の日本に原発を導入させた。そこから日本人の「原発安全神話」宣伝活動（さまざまな方法で）が始まったのである。これも歴史的事実である。

そしてスリーマイル島、チェルノブィリの原発甚大事故や国内の多くの原発事故を教訓にすることもせず我々は3.11を迎えることになったのである。

以上の歴史的経緯をきちんと踏まえた上で、さて私達教員は何を為さねばならないか、3.11以降それは重大な意味をもつことになった。私達教員は高校生に原発・放射線についてそれまできちんと教えてこなかった。それゆえ当然それに内在する人権問題をきちんと教育課題として捉えてこなかった。将来の日本を背負う高校生に対して、原発・放射線の影響をきちんと教えることは必須であり、それは国の運命さえも左右しかねない最重

要教育課題とみなすべきである。現在、高校の教育内容にはそのための適切な教材が、文科省発行の「副読本」も含めて、まだ無い。そこで「くらしと環境」研究委員会では2年計画で「人権の視点を基盤に据えた」教材を作ることにした。

II. 活動経過概略

5月18日（金）総会后、打ち合わせ。座長決定・活動内容決定

座長として、辻本公平（奈良文化）山元祥（御所実業）に決定。研究テーマとして『原発事故からみた放射線の人・環境に与える影響』の何を、どのように教えるか」に決定。2年計画の活動で教案を作成することを確認。

5月25日（金）第1回委員会（橿原中央公民館 講座室）

① 1年間の活動計画案の検討・決定

- 1回目（当日） 原発・放射線の基礎学習（1回目）
- 2回目（6. 22） 同上 （2回目）研究方針の決定
- 3回目（9. 21） 講師を招いての学習会+委員会内分担
- 4回目（10. 26） 現地学習会+パート別発表・検討（1回目）
- 5回目（1. 11） 講師を招いての学習会+パート別発表・検討（2回目）

② 資料綴じ・読み合わせ作業 「図解 原発のウソ」（小出裕章著）

6月22日（金）第2回委員会（橿原中央公民館 第二会議室）

- ① DVD視聴 「3. 11 原発事故100時間の記録」（NHKスペシャル）
- ② 当時の新聞閲覧（約1時間）
- ③ 資料綴じ作業（2冊子）・「隠された被曝」（矢ヶ崎克馬著）
・「内部被曝」（矢ヶ崎克馬・守田敏也著）
- ④ 読み合わせ ・「内部被曝」（矢ヶ崎克馬・守田敏也著）
- ⑤ 疑問出し合い（メモ各自提出） ⑥ 研究小テーマの候補検討

9月21日（金）第3回委員会（橿原中央公民館 第二会議室）

- ① 講演 講師 中西克至氏（御所実業高校）
原発・放射線・福島第一原発事故についての分かりやすい講演 質疑応答
- ② 授業展開例の報告（辻本）

10月19日（金）第4回委員会（大阪人権博物館（リバティおおさか））

- ① 特別展見学 「原発と人権」（“Beyond Fukushimaー福島の彼方に”）小原一馬 写真展
- ② 研究冊子作成の方向性の確認 冊子A（高校生用副読本）冊子B（指導書）
作成。冊子Bには各自、自分の教科に関わる授業展開例を1時間分以上入れる。

1月11日（金）第5回委員会（橿原中央公民館 講座室）

- ① DVD視聴 「ネットワークで作る放射能汚染地図（5）『埋もれた初期被曝を追え』」（ETV特集）
- ② 小出氏・今中氏講演報告（辻本） ③ 研究小テーマ分担の検討・決定